

2020年8月27日

「防災安全合わせガラス」の 普及促進について

板硝子協会は、これまで JIS R 3205 : 2005 に適合する全ての合わせガラスについての呼称を「防災安全ガラス」としてきましたが、昨今頻発している様々な自然災害をふまえて、よりわかりやすく一般消費者の皆様へ安全で安心な生活を提供するために、防災性能の起因となる中間膜の厚みの違いによって呼称を以下の通り明確にすることとしました。

中間膜の厚み	呼称
60mil 以上	防災安全合わせガラス
30mil 以上 60mil 未満	安全合わせガラス
30mil 未満	合わせガラス

防災安全合わせガラスの新しいロゴマーク



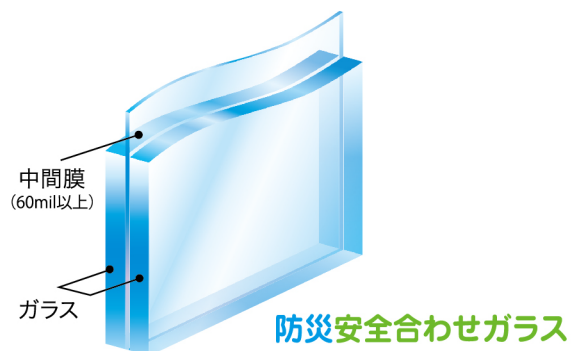
また同時に、板硝子協会としては、これまで使用してきた「防災安全ガラス」の呼称を廃止するとともに、防災安全合わせガラスが全ての自然災害に対応するガラスとの誤解を招かないために、今後 PR の際には、以下の説明も併せて実施して参ります。

【防災安全合わせガラスは、地震時の転倒家具や台風時の飛来物の衝突に対し、耐貫通性に優れたガラスですが、あらゆる災害、及び事象に効果を発揮するわけではありません。】

なお、「防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議」によって「防犯性能の高い建物部品」に搭載された中間膜 30mil 以上の合わせガラスについて「防犯ガラス」と呼称することは継続いたします。

※「防災安全合わせガラス」とは、2枚の板ガラスの間に合成樹脂の中間膜をはさみ、熱と圧力で圧着した合わせガラスで、その中間膜が 60mil 以上のものを言います。2枚のガラスが強力に接着されているの

で、耐貫通性に優れ、万一破損しても破片がほとんど飛び散りません。防犯や防音性にも優れ、経年劣化もほとんどないのでメンテナンスも不要なガラスです。



<掲載に関するお問い合わせ先>

板硝子協会

〒108-0074 東京都港区高輪1-3-13 NBF 高輪ビル4F

TEL.03-6450-3926 / FAX.03-6450-3928

(受付時間: 平日午前10時~午後4時)